

2024年5月13日 常務理事会
2024年5月27日 定期理事会
2024年5月27日 定期評議員会

東京神学大学 事業報告書（2023年度）

I 法人の概要

1. 設置する大学と建学の精神

学校法人東京神学大学は、神学部神学科の学部、並びに組織神学専攻と聖書神学専攻を擁する大学院（博士課程前期、後期課程）を設置しています。これに併せて総合研究所（日本伝道研究所並びにアジア伝道研究所）を付設しています。2023年度の入学定員は学部5名、別途3年編入学定員20名で、学部総定員は60名、大学院博士課程前期課程入学定員は各専攻15名、博士課程後期課程入学定員は各専攻2名です。2023年度の学生数は学部34名、大学院38名、計72名（2023年5月1日現在）。

本学は、福音主義のキリスト教神学を研究し、福音の宣教に従事する教役者（牧師、キリスト教学校の聖書科教員などの伝道者）を養成すること、特に日本基督教団の教職者の養成と神学的指導の使命を担うことを「建学の精神」としています。これによって教育と事業を貫く「基本理念」を以下のように表明しています。「東京神学大学は日本基督教団の教職養成の責を担うものであるが、それとともに合同教会としての教団の世界教會的理想に従い、より広く日本の諸教会、アジアの諸教会の教職養成に貢献し、かくして日本の宣教と世界教會の宣教とに奉仕しようとするものである。」

2. 東京神学大学の沿革

東京神学大学は、日本基督教団の成立に併行して、福音主義キリスト教各派の神学機関を統合しながら成立し、この成立史とそこから生じる使命のゆえに「教団立神学校」として、今日に至っております。成立の経緯の概要は以下の通りです。

- 1859（安政06）年 プロテスタント諸教會の宣教師たちが日本で宣教を始める。
- 1872（明治05）年 横浜に最初の教會「日本基督公会」が設立される。
- 1873（明治06）年 宣教師のS・ブラウンが横浜に最初の神学塾「ブラウン塾」を開校。
- 1877（明治10）年 「東京一致神学校」（後の明治学院）開校。
- 1904（明治37）年 植村正久牧師により「東京神学社」設立。
- 1930（昭和05）年 本学の前身「日本神学校」が設立され、「明治学院神学部」が合流。
- 1941（昭和16）年 プロテスタント諸教派の合同教団として日本基督教団設立。
- 1943（昭和18）年 教派ごとに分かれていた15の神学校が「日本東部神学校」・「日本西部神学校」・「日本女子神学校」の3校に統合される。
- 1944（昭和19）年 「日本東部神学校」・「日本西部神学校」が、さらに「日本基督教神学専門学校」として合流。
- 1945（昭和20）年 「日本女子神学校」の後身「日本基督教女子神学専門学校」も「日本基督教神学専門学校」に合流。
- 1949（昭和24）年 新制度による大学として「東京神学大学」となる。
- 1951（昭和26）年 私立学校法の公布に伴い「学校法人東京神学大学」に組織変更。千代田区富士見町から三鷹市牟礼に移転。

- 1966（昭和41）年 三鷹市牟礼から現在地（三鷹市大沢）に移転。
 1968（昭和43）年 本館東部部分を増築。
 1986（昭和61）年 本館から独立させて図書館棟を建設。
 2011（平成23）年 韓国イエス教長老会神学大学校と相互協力協定を結ぶ。
 2020（令和2）年 教員住宅を更新。
 2021（令和3）年 学生寮を更新。

3. 役員・教職員の概要（2024年3月31日現在）

(1) 理事（18名）

理事長	藤掛 順一	理事	長山 信夫
学長理事	神代真砂実	〃	嶋田 順好
財務理事	高橋 潤	〃	松井 睦
常務理事	黒沼 健	〃	河田 直子
〃	安藤 良一	〃	REEDY, David
〃	東野 尚志	〃	小山 美弥
〃	渡部 満	〃	山畑 謙
〃	小林 克彦	〃	古屋 治雄
理事	小林 眞	〃	岡村 恒

(2) 監事（2名）

監事	市川 一宏
〃	齋藤 孝

(3) 評議員（37名）

評議員	岡村 恒	評議員	藤井 清邦
〃	田中かおる	〃	山崎みどり
〃	服部 修	〃	黒沼 健
〃	武田 真治	〃	小泉 健
〃	小林 眞	〃	須田 拓
〃	佐治 範子	〃	神代真砂実
〃	郷田 敬	〃	井ノ川 勝
〃	望月 修	〃	山畑 謙
〃	安藤 良一	〃	小堀 康彦
〃	小林 克彦	〃	古屋 治雄
〃	岩田 昌路	〃	黒米 理恵
〃	福島 純夫	〃	渡邊 義彦
〃	松井 睦	〃	小山 美弥
〃	A.キスト岡崎	〃	REEDY, David
〃	高橋 潤	〃	嶋田 順好
〃	東野 尚志	〃	渡部 満
〃	河田 直子	〃	土橋 正文
〃	長山 信夫	〃	戸塚 智之
〃	瀬谷 寛		

(4) 教育職員 (14名)

学 長	神 代 真砂実	准 教 授	田 中 光
教 授	小 友 聡	〃	本 城 仰 太
〃	中 野 実	特任教授	朴 憲 郁
〃	W. ジャンセン	〃	芳 賀 力
〃	小 泉 健	特任准教授	河 野 克 也
〃	須 田 拓	特任常勤講師	矢 田 洋 子
〃	長 山 道	助 教	飯 田 仰

(5) 事務職員 (12名)

事務長	土 橋 正 文		
総務課主任	戸 塚 智 之	山 田 雅 子	今 中 匡 彦
経理課	光 永 豊	今 中 匡 彦 (兼務)	
財務課	松 本 秀 則		
教務課事務主任	萩 原 なおみ		
教務課・学生課		小 林 由 希 子	木 村 訓 子
図書館事務主任	木 下 真由美	岸 本 苑 子	鮎 川 千 織

II 事業の概要

2023年度は、新型コロナウイルス感染症が5月に第5類に変更となり、なお様々な感染防止対策をとりながらも、活動の制約が徐々に解かれ、コロナ禍で休止されていた活動の多くが再開される一年となった。なお献身者の減少に直面しており、これからの伝道のために、さらなる献身の呼びかけが急務であるが、2023年度は学長・事務長が交代し、新たな思いで歩みを進めた。ここに、本学の教育・事業の進捗状況や主たる改革努力について事業の概要を報告する。

1. 教育理念・目的および教育内容・方法・成果にかかわること

本学は、寄附行為前文、また学則に規定されているように、伝道献身者の養成を目的とし、そのための教育体制を整えている。しかし、2017年度より神学研修志望枠を設けて、信徒として教会やキリスト教学校、キリスト教施設等を支えようとする方々にも学部の学びを開放し、そのような広義の伝道者の養成も使命と捉えるようになった。2023年度には、この枠で1名が入学した。神学研修志望枠での入学者には、従来の伝道献身者枠への志望の変更が認められている。2023年度には、2名の志望変更志願者があった。

また、伝道献身者を育成するという一つの目的の下で、学部と大学院それぞれの教育の果たすべき役割を明確にすべく、それぞれの学則に、学部と大学院それぞれの目的を記載すると共に、ディプロマポリシー、カリキュラムポリシー、アドミッションポリシーの3つのポリシーを公表している。2023年度は、学部のディプロマポリシーについて、神学研修志望枠の学生にも当てはまる表現となるように再検討し、2024年度より改定することにしていく。また、学修成果の多様な測定指標の策定が求められる中であって、アセスメントポリシーを策定しているが、年度末には、昨年度に引き続き、アセスメントポリシーに基づく機関レベル及び教育課程レベルの検証を教授会において行った。

博士課程後期課程については生産性の向上が課題であり、様々な改革を進めてきた。2021年度には1名、2022年度にも1名について論文博士による学位の授与を行い、さらにもう1名への授与が2023年度中に決まったが、課程博士については2018年度に通算3例目を授与して以来、授与者がいない状態が続いている。牧師として任地へ赴き牧会をしながら、あるいは他大学でキリスト教関係科目の教育を担当しながらの研究となるため、長期履修制度等の活用による生産性の向上が期待されるが、さらに十分な研究時間を確保して学び続けることができるよう、制度改革や支援の拡充が必要である。2022年度に大学院研究科のFDとして、芦名定道先生（関西学院大学教授）を講師として行った研修を通して、他大学における制度や支援のあり方を学んだが、それをきっかけとして、従来、博士課程後期課程在籍中の研究と指導の成果として論文を書き上げながらも、わずかに在籍可能年限を超えたために課程博士ではなく論文博士となったケースについて、今後同様の場合に課程博士として扱うための制度改革の可能性が浮上し、その検討が始まっている。

2. 教育研究組織および教員・教育組織にかかわること

a. 授業担当者能力養成（FD）

本年度も、前期・後期にわたり科目を選択して交代させながら、学部と大学院双方で、授業効果調査アンケートを行い、それらの調査結果を授業担当者全員に開示した。

また、FD活動の一環として、また、本学の研究倫理規程の内容を教授会メンバー全員で確認し、引き続き遵守することを申し合わせると共に、2024年3月13日に大学院研究科のFDとして、専攻毎に全教員が集まって、演習授業の持ち方や論文指導の方法について話し合う形で研修を行った。

b. 大学院博士課程後期課程研究発表会

2023年6月20日の一般時間に、大学院博士課程後期課程研究発表会を開催し、在学中の山地悟氏（新約聖書神学）と平澤巧氏（組織神学）が、それぞれ研究発表を行った。

c. 日本伝道研究所主催講演会

日本伝道研究所の活動を活発化させるべく、日本伝道研究所主催の講演会を年1回開催している。2023年度は12月5日に川島堅二先生（東北学院大学教授）により、「日本人とカルト-とくに伝道論の視点から」をテーマとする講演が行われた。

d. 教員・教育組織

2022年度末を以て芳賀力学長が学長の任期を終え、教授としても定年により退任した（但し2023年度以降も特任教授としてお働きいただく）。芳賀教授には名誉学位と名誉教授称号が授与され、その授与式が2023年5月2日に行われた。2023年度からは神代真砂実教授が学長に就任し、その任職式が2023年4月18日に執り行われた。さらに2023年度に河野克也特任准教授（新約聖書神学）と飯田仰助教（歴史神学）が任用され、これにより、教育職員の定数14名が確保された。いずれも他教派（河野特任准教授は日本ホーリネス教団、飯田助教は日本同盟基督教団）の教職であるが、2022年度に制定した「東京神学大学特任専任教員の任用に関する内規」に基づいて任用されたものである。

また、2023年度末を以て小友聡教授が定年退職することから、2024年度から1名を任用することを目指し、交渉を進めた。

3. 学生の受け入れにかかわること

a. 新入学生の動向

2023年度には、神学部・神学科1年次に1名、同2年次に2名、同3年次に10名、同4年次に1名、学部としては合計14名の入学者を迎えた。なお、このうち1名は神学研修志望による入学である。全体としては献身者の数が大幅に不足している。大学としての定員充足の問題にまして、諸教会・学校に伝道者を送り出す使命を果たすために、献身者を呼び起こし、学生を受け入れる不断努力が今後も必要である。

b. 高校生会、青年の集い、オープンキャンパス行事など

- ① 高校生会には、毎年、首都圏の諸教会から高校生が集まるが、コロナ禍にあっては新型コロナウイルスの感染拡大防止のため引き続き中止となっていた。2023年度は11月25日（土）に開催予定であったが、参加者がなく、中止となった。
- ② 本学と発起人教会によって行われている「日本伝道を担う青年の集い」は、毎年9月に本学で開催されるが、2023年度は久しぶりに対面のみで開催した。礼拝説教を神代真砂実学長に、献身の喜びを本庄侑子牧師（大阪教会）と竹井真斉牧師（宇佐教会・豊後高田教会）にお願いした。全体で80名、内学外から30名の参加があり、そのうち3名（いずれもオンライン）が受験相談をした。
- ③ 「オープンキャンパス」は、2023年12月2日に実施され、学外からは11名の参加があった（内オンライン1名）。そのうち受験相談には9名が参加した。こうした地道な努力が中長期的に本学の志願者増大へと結びつくよう期待している。
- ④ 青年の集いやオープンキャンパスの終了後の受験相談は確実に受験に結びついている一方で、入学志願者への働きかけとしては時期が遅いとの指摘があったため、数年前から、より早い時期に「入試説明会」を行っている。2023年度は7月15日に開催された。8名の参加者（うち2名はオンライン）があり、5名から受験相談を受けた。
- ⑤ 2013年度より「派遣プログラム」として、全国の教会やキリスト教学校に学生を派遣し、献身の喜びを語ってもらうようにしている。2023年度は18名が17校に派遣された。

- ⑥ 2024年3月16日、学生会主催の「ユースフォーラム」を開催した。19名の参加があった。学外からの青年は5名であった。
- ⑦ 2023年7月1日～17日、教文館のご厚意で、教文館において「東神大フェア」を開催した。

c. 広報における SNS の利用

広報委員会の主導の下、広報活動に YouTube や Instagram, LINE 等の SNS を積極的に使用すべく、2023年度はその準備と共に、まず SNS 運用規程が整備された。

4. 学生支援にかかわること

a. 障がい者への配慮

2019年度に視覚障がいを持つ学生1名を受け入れた。この学生は日頃の授業等での配慮は必要としないが、文献を読んだり文書を作成したりすることに時間を要するため、試験の時間を延長するなどの措置を講じ、2022年度末に大学院博士課程前期課程を修了した。また、2023年度は、2024年度入学者選抜受験者の中に、強度の日光アレルギーを持つ者があり、入学者選抜の際には、使用する教室に暗幕・遮光カーテンを張ることで対応し、当該学生入学後の準備として、一部の教室に遮光カーテンを準備するなどした。

障害者差別解消法の施行により設置された自動ドア、エレベーターなどは、病気やけがを抱え、移動が困難な学生たちにとっても大きな助けとなっている。

b. 学内モラルの向上プログラム

2015年以来毎年4月に行っている神学校全学集会では、本学を構成するすべての者たちが召命共同体として自覚を持ち、使命感を明確にして共に学校生活を形作っていくための大切な機会となっている。2023年度は、その神学校全学集会において、学習倫理・研究倫理についても扱われた。また、伝道者養成のために学問としての神学を学ぶだけでなく、生活全体を献身者として整えていけるように「生活倫理講座」を行っている。

c. 夏期伝道実習および神学生出席教会の牧師との懇談会

2023年度は8月6日～9月3日に、夏期伝道実習として各地に実習生を派遣した。実習生は、学部4年生12名、大学院修士課程1年生13名合計25名であった。本年度は、うち2名が海外の教会に派遣された。秋には、実習先教会牧師の報告書と実習生の報告をもとにして、教会実習委員会の教員が実習生と面談した。そこでさまざまな課題を共に話し合い、今後の大学と出席教会における学生の訓練の生活に役立てるように話し合いの時を持った。

神学生が出席している教会の牧師と教授会との懇談会を後期始業式の後に行っているが、2023年度は出欠のはがきを利用して近況報告を書いていただくと共に、9月19日に懇談会を実施した。

d. 留学生との懇談会

毎年、留学生全員と教授会メンバーとで懇談会を持っている。留学生の一人一人が学びや生活の状況を話し、またあまりかかわりのない教員とも交流を持つ機会となっている。2023年度は2023年10月17日に対面で実施することができたが、なお感染症の状況を考慮し、多人数が集まることを回避するため、教授会からは留学生委員会のジャンセン教授、小友教授、田中准教授が参加し、留学生は6名全員が参加した。

e. 卒業予定者の就職状況

2023年度は、大学院修士課程前期2年生の修了者は12名、学部からの卒業者は1名、計13名が巣立っていった。大学院で学んだ12名のうち、2名は他教派からお預かりした人であった。残りの10名のうち9名は日本基督教団の教会に、1名は日本基督教団の関係学校に遣わされて行った。

5. 社会連帯・社会貢献にかかわること

a. 韓国のイエス教長老会神学大学校との交換教授プログラム

2023年度は11月18日(土)から23日(木)まで、イエス教長老会神学大学校から組織神学分野の白忠鉉教授をお招きして行われた。11月21日(火)に講演と教授会との交流会、22日(水)に大学院の特別授業が行われた。

b. 学校伝道協議会

2023年5月27日に第24回キリスト教学校伝道協議会を対面とオンラインで開催した。主題「建学の精神を次世代へ引き継ぐために ―今、私たちにできること―」、対面とオンライン併せて50名近い参加があった。

c. 日本伝道フォーラムおよび東京神学大学後援会公開講演会活動

① 2023年6月6日に第5回日本伝道フォーラム(主題「キリスト教の将来」)をオンラインで開催した。120名近い参加があった。

② 2023年度は全国29地区の東京神学大学後援会が公開講演会を行い、延べ239教会、1043人が参加した。2020年度以来、新型コロナウイルスの感染拡大により講演会を行うことができずにいた地区も、徐々に再開している。

d. 教職セミナー

2024年1月9日～11日、国立オリンピック記念青少年総合センターを会場に第52回教職セミナーが開催された。4年振りに対面で実施することができた。主題は「教会とは何か? 今改めて考える」で、須田拓教授が主題講演を担当した。須田拓教授による主題講演と旧約、新約、組織、実践の神学各分野からの発題、さらに2名の牧師による発題がなされ、学外の教職79名を迎え、学内の教職員、大学院前期課程修了予定者を合わせ、計105名が参加した。

e. 東京神学大学公開夜間神学講座

本講座は、毎週2回(月・金曜日:午後6:00～8:00)、銀座教会の福音会センターおよび5階会議室(2021年度から)で開催されてきた。敗戦後まもなくに創設された長い伝統をもつ、信徒のためのユニークな神学講座である。各年度は3学期に分かれ、神学入門、旧約聖書、新約聖書、組織神学、教会史、世界宗教史、キリスト教美術、キリスト教音楽、実践神学などの諸学を講師から学ぶことができる。2年間で全科目を終える正規生に加え、科目受講生、聴講生の制度もある。

2023年度には、77期生を6名迎え、銀座教会の5階会議室にて、定員制(25名)とし、対面で実施した。2023年度の修了者は正規生3名、科目受講生1名であった。

6. 内部質保証(自己点検評価)にかかわること

a. 東京神学大学「内部質保証向上委員会」の機能の実質化

2013年7月に本学の「内部質保証向上委員会」が設置され、本学における内部質保証体制に責任を持つことになった。2018年度にその規程等が整備され、2019年度からは、内部質保証向上委員会を中心とした内部質保証体制を実質化させた。2023年度は、内部質保証向上委員会の主導により、大学ガバナンスコードを制定した。また、自己点検評価や理事会・評議員会の懇談会における提言、神学校生活懇談会、卒業時アンケート結果などを踏まえ、内部質保証向上委員会から、学部ディプロマポリシーの改定、シラバスのさらなる充実、博士課程後期課程の制度改革、教員の任用・昇進における客観的基準の策定、学生募集・広報における奨学金等の周知及びオンラインの活用等が提言された。これらは特別教授会に報告され、各部署や教授会で検討され、それぞれ改善が図られたか、あるいは図られつつある。

b. 大学基準協会への改善報告書の提出

2019年度の大学基準協会による認証評価の際に改善すべき事項として指摘された課題につき、その改善状況の報告書を7月に提出した。

7. 施設や設備に関する主たる事業について

a. 新型コロナウイルス感染防止対策

2023年度は引き続き新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、本館・図書館・学生寮の出入口にアルコール消毒液を設置している。また、大教室出入口にアルコール消毒液を設置し、併せて各教室に「3つの密を避ける」ポスターを掲出し、各教室の机に「着席不可」のラベルを貼付し密を避けるようにした。

図書館では、2022年度から引き続き2023年度も利用者間に感染拡大が発生しないように各種の対策を講じた。対策は当館関連の各図書館協会によるガイドラインを参考にした。まず、学外利用者の受付は一部を停止し、利用者には入館時のマスク着用と手指の消毒を義務づけ、距離を取っての利用を促した。さらに、入館人数と閲覧席数も制限した。午前と午後に図書館施設のみならず図書館棟全体の消毒を行い、カウンターも利用者との間を難燃性のビニルカーテンを用いて仕切った。また、コロナ禍前はアルバイト学生の人数配置において、同時に3人以上の複数シフトも一部の時間帯に実施していたが、利用の多い時間帯を2人、それ以外は1人を配置した。

b. オンライン環境の活用

2020年度以来の新型コロナウイルス感染症の拡大状況下にあつて、神学教育は単に知識を伝達することに留まらず、伝道者としての人格が形成されることが重要であることに鑑みて、当初、本学は完全オンライン授業とするのではなく、対面とオンラインを組み合わせたハイブリッド授業を行い、2021年度以降は原則として対面で授業を実施してきた。しかし、2021年度以降も、整備したオンライン環境を活用して、主に非常勤講師の担当する授業について、講師の本務校からの要請等やむを得ない場合に限り、一部についてCisco Webexを利用したオンライン授業を併用すると共に、入試説明会やオープンキャンパス、日本伝道フォーラム、キリスト教学校伝道協議会、教職セミナー等の諸行事にもオンラインを活用してきた。2023年度も、日本伝道フォーラムはオンラインで実施すると共に、キリスト教学校伝道協議会、入試説明会、オープンキャンパスは対面での実施を主としつつ、オンラインを併用した。

オンライン授業を実施するにあたり、図書館所蔵資料などを利用する場合に「授業目的公衆送信補償金制度」を適切に運用するため、授業目的公衆送信補償金として学生総数(74名)及び公開講座等分の手当てを行った。

図書館資料に関しては、出版界における電子資料への切り替えが加速度的に進んでいることから、外部資金の積極的な活用を含めた導入と運用について引き続き検討を続けていく。

c. 本館・名誉教授室ネットワーク機器およびC教室PCのアップデート

本館・名誉教授室のHUBおよびLANケーブルを7月に交換した。

C教室に設置しているノート型PC(2022年4月リプレース)のWindows 10のメジャーバージョンアップが22H2で終了した(サポートは2025年10月まで)ため、9月にWindows11へアップデートした。

d. 東神大ホームページリニューアル

ホームページに利用しているCypochiCMSの延長サポート期間が終了し、ウェブサーバーのOSのCentOS 7.xも2024年6月でサポート終了となるため、新しいOSとCMS WordPressへ移行し、ホームページを2024年3月にリニューアル公開した。

e. 主な修繕工事

- ① 照明器具をLEDに交換した。2023年度は、本館常夜灯（3箇所）および外灯（8箇所）をLED化した。
- ② 中近東文化センターとの境界部分のサクラを伐採した。

f. キャンパス整備事業

2019年度に教員住宅が、2021年度に学生寮が完成し、供用を開始している。研修センターの建設は学生数減少に伴う減収を危惧し、資金計画に目途がつくまで一旦中止とした。2023年度もその方針を維持した。

8. 主たる行事

- (1) 4月4日 入学式・前期始業式
式 辞：神代真砂実 学長
始業講演：中 止
- (2) 4月4日・5日・6日 新入生・新編入生オリエンテーション
- (3) 4月7日 前期授業開始
- (4) 4月10日 公開夜間神学講座 開講式・神学入門 銀座教会
- (5) 4月17日 公開夜間神学講座 1学期開始 銀座教会
- (6) 4月18日 学長任職式
- (7) 4月21日 クラス別懇談会
- (8) 4月25日 神学校全学集会
- (9) 5月2日 名誉学位・名誉称号授与式（前学長 芳賀 力教授）
- (10) 5月8日～9日 同期研修会
- (11) 5月16日 全学懇談会
- (12) 5月23日 前期学生総会
- (13) 5月31日 運動会
- (14) 5月27日 キリスト教学校伝道協議会（対面・オンライン）
主 題：「建学の精神を次世代へ引き継ぐために ―今、私たちにできること―」
- (15) 5月30日 生活倫理講座
- (16) 6月6日 日本伝道フォーラム（オンライン開催）
主 題：「キリスト教の将来」
- (17) 6月13日 全学祈祷会
- (18) 6月20日 博士課程後期課程研究発表会
- (19) 7月11日 夏期伝道実習オリエンテーション
- (20) 7月18日 夏期伝道実習壮行祈祷会 説教：白井 真牧師（福島伊達教会）
- (21) 8月2日 前期授業最終日
- (22) 8月5日 夏期休業開始
- (23) 8月6日～9月3日 夏期伝道実習期間
- (24) 9月4日 公開夜間神学講座 2学期開始
- (25) 9月12日 大学院修士論文提出締切
- (26) 9月19日 後期始業式・始業講演
始業講演：「三位一体論的神学の行方」 須田 拓教授
午後「神学生出席教会牧師と教授会との懇談会」
- (27) 9月20日 後期授業開始
- (28) 9月30日 日本伝道を担う青年の集い

- (29) 10月3日 夏期伝道実習報告会
- (30) 10月18日～25日 11月入学者選抜願書受付期間
- (31) 10月24日 全学修養会基調講演Ⅰ 講演：服部 修牧師（蕃山町教会）
- (32) 10月31日 全学修養会基調講演Ⅱ 講演：長谷川忠幸牧師（日本アッセンブリーズ・
オブ・ゴッド教団 境港キリスト教会）
- (33) 11月7日～8日 全学修養会（東京神学大学） 講演：岡村 恒牧師（高幡教会）
- (34) 11月23日 11月入学者選抜実施日
- (35) 11月28日 11月入学者選抜合格発表
- (36) 12月2日 オープンキャンパス
- (37) 12月5日 日本伝道研究所主催講演会 講演：川島堅二先生（東北学院大学教授）
- (38) 12月6日 修士論文合格発表
- (39) 12月15日 クリスマス礼拝 説教：北川正弥牧師（代々木中部教会）
- (40) 12月16日 冬期休業開始
- (41) 1月9日～16日 2月入学者選抜願書受付期間
- (42) 1月9日～11日 教職セミナー（国立オリンピック記念青少年総合センター）
主題「教会とは何か？ 今改めて考える」 講演：須田 拓教授
- (43) 1月12日 後期授業再開
- (44) 1月16日 第2回全学祈祷会
- (45) 1月23日 後期学生総会
- (46) 1月26日～2月2日 3月入学者選抜願書受付期間
- (47) 2月8日 後期授業最終日
- (48) 2月13日～14日 2月入学者選抜実施日
- (49) 2月16日 2月入学者選抜合格者発表
- (50) 3月1日 2023年度大学院前期課程修了者、学部卒業者発表
- (51) 3月5日 3月入学者選抜実施日
- (52) 3月7日 3月入学者選抜合格発表
- (53) 3月7日 卒業礼拝 説教：東野尚志牧師（滝野川教会）
- (54) 3月8日 卒業・修了式
告 辞：神代真砂実学長
励ましの辞：雲然俊美牧師（教団総会議長）
岸 俊彦牧師（経堂北教会）
- (55) 3月11日 公開夜間神学講座 修了式
- (56) 3月16日 ユースフォーラム